

Thinking Rugby 2002～2003 復活、飛躍への視点と論点 その6

“レフリングの実際と工夫”

レフリングの実際面に視点を置いて問題解決の工夫をしましょう。レフリングについて不満や批判が多くあります。その多くは、理論だけで、実際面の議論が少ないという原因によるものです。レフリングについて文句を言うのはいけないことという観念が一人歩きしてしまって、レフリングについての議論が不活発な結果です。目指すゲームを作り出すのは、プレーヤーとレフリーの共同作業です。両者に同行者としてお互いに理解し合う心が大切なのです。引退後かそれ以前かの差はあっても、プレーヤーがレフリーを務めることが非常に多いのが現状ですから、いずれの場合も含めて、レフリーは勿論のこと、プレーヤーもレフリングを前もって考察することは、ラグビーを楽しむのに不必要どころか不可欠なことなのです。今から、レフリーの立場に立って、レフリングに携わる場合の第一歩からはじめましょう。

レフリーをすることに意欲とビジョンを持つことが成長の原点になります。レフリー初経験の過程は様々であっても、プレーヤーとひと味違うラグビー観を大切に、できるだけ早い時期にレフリーとして進む決意をするチャンスを逃がさないことです。その時の興味あふれる気持ち、将来の意欲とビジョンに影響するからです。最も多いのは現役引退後の移行の場合だろうが、それだけの覚悟と意欲が必要で、経験を生かすという気持ちだけではよいレフリングはできません。プレーヤーとしての経験が100%生きるというものではありません。プレーをしていたときの気持ちが災いすることもあるからです。プレーヤーは試合に勝つ為にやっているのですから、ニュートラルの目と心ではなかったのです。それから、ビジョンを持つことは少し後になっても仕方ないですが、目指すゲームについては、自分の言葉で文字にすることです。たとえば、right, bright, interest といった言葉を使うのもよいでしょう。

次にレフリング研究に係わる過程と方策を考えましょう。第一段階は身体と心の準備です。プレーヤーとしての準備は、一応できているといっても、レフリーに求められる内容はだいぶ違うのです。レフリーはルールを知りプレーに適用して笛を吹くだけと単純に考えてはいけません。プレーヤーと楽しい試合を作り出す共同作業当たってフリーにプレーヤーに勝つとも劣らないほどの走力が求められます。ルールをよく知っている事についても、それは単にルールを記憶するだけではなく、ルールの制定の意図がゲームに生きるレフリングに繋がるものでなければなりません。プレーヤーから信頼を得られる権威ある態度、公正であるとともに、プレーヤーの激しさを吸収する冷静で温かな雰囲気も欠かせないものです。

第二段階は、改めて本格的にルール研究することです。

単なる文字ぶらの記憶でなく、ルールの歴史や精神から研究しなくてはなりません。それはプレーヤーとして試合に勝つためにルールを覚えたのとはまた違ったものです。勝つ為に戦っていた時の感覚が全て正しいとはいえないのです。ペナルティを科せられる反則について、プレーヤーがルールを知らないか、偶然にそうってしまった場合は別として、勝つためにルールの規定ぎりぎり一杯の位置や行為をする事がありますが、それは反則と紙一重のもので、反則と判定されても仕方ないものもあります。走幅跳びの踏切の微妙さを思いだしてください。ジャンパーがぎりぎり一杯を狙う結果ファールになり記録が消えてしまう場合も数多いのです。ラグビーにおいて、ルールを正しく守る・守らせるとは結果的には反則が無いことで、ルールの意志が達成されたということです。それには、レフリーの意志をしっかりと伝え、勝つために反則に鈍感になる傾向のあるプレーヤーに、ぎりぎり一杯についての感覚を冷静にするように、レフリーが注視していることを悟らせる工夫もしなければなりません。

並行して、レフリング技能を磨かねばなりません。レフリングはよいゲームを作る技です。ルールは平等公平に、オープン展開が継続し、事故がないことを目的としています。一通りの準備ができたなら、さらに実際面に焦点を合わせましょう。

a . ルールは場面として把握し、ゲームの流れの中で理解しなければなりません。

その反則はどんな場面で起こるのか前もって整理しておけば、位置取りが的確になります。その前提としての走るコースに無駄を無くさねばなりません。トライの判定には位置取りが重要条件です。同じ反則であってもゲームの流れの中では違う意味をもつことがあります。典型的なものとしては、ペナルティトライがあります。

b．目前の事実の正確な判断と予測が要素です。

正確な判断は、的確な位置取りが第一条件です。セットプレーの場合の位置取りが基礎になります。これには原則的なものがありますが、個人の工夫も大切です。それをもとにオープンプレー全般の位置が考えだされ、移動のスタートのタイミングが問題になり、走るコースの図面を描きあげることです。

スタートは早いほどよいのですが、そのために前の局面の終了を待たずに移動すると、最後の瞬間の反則が見られません。それを防ぐために立つ位置を工夫して心もち遅くスタートするという工夫が有効なこともあります。

c．ゲームの進行を予測することは大切です。予測は色眼鏡でみることはありません。

ルールから考えられる一般的予測は必要です。その時代特有のプレーや作戦の傾向・流行を予測することも無駄ではありません。また、チームやプレーヤー個人独特の傾向予測も役立つことがあります。

当然のこととしてプレーヤーの試合前の気持ちは予測できます。予測の確率を高め、過熱気味な場合は冷静に緩めるムードを作り出し、直前の雰囲気や冷静にキャッチし、試合開始5～10分の早い時期に過剰な状態に対処しなければなりません。それに失敗すると、首尾一貫性を守るために最後まで悪い傾向にひきずられてしまいます。

d．冷静にしかも決然と

模範的方法を研究することは大切ですが、型通りにならないのもゲームですから、自信を失わないようにすることです。そのためには自分に合った方法を平素から作り出す努力が大切です。試合中の迷いは更なる失敗の原因になりますので絶対禁物です。

粗暴な妨害や事故に直結するという反則行為は、例え最初であっても退場させなくてはなりません。それには心の準備が大切です。

e．反則の多発を予防する

ペナルティは絶対に10以下であるべきです。数の多くなる原因は反則したプレーヤーにあるのは勿論ですが、予防と指導を怠ったレフリーの責任も大きいのです。

レフリーとしてよいゲームを作り出したいというビジョンの宣言が第一です。これは試合直前に言うという意味ではありません。平素の問題であり試合以前の問題です。そして、試合中に問題があると感じた事柄や傾向については、ゲームの早い時期に、反則に対して笛を吹きポイントを指示するだけでなく、十分に間をとって、チームまたは個人に説明と気をつけるように忠告をすることによって、次の反則を予防し多発しないようにしなければなりません。レフリーがニュートラルであるということは、双方に対し利益不利益という点で中立ということであって、正しいゲームを進めるために必要な忠告は問題無いのです。また、何もいわないでいきなりイエローカードを出すのではなく、その前に、プレーヤーにレフリーの考えを理解してもらう機会をもつこともプレーヤーに反省させることに役立ちます。それはプレーヤー自身にとっては感謝すべきことでもあるです。

最後に、レフリング記録保管と活用の問題です。

レフリングの記録を保管し活用することはレフリーとしての成長の糧になります。

チーム名や場所天候スコアといった通常のことに加えて、次のような事柄を記録し、研究材料として、以後のレフリングに役立てることです。上級者に感想を聞いたり、失敗や不明確な点を、場を変えて質問をして、勉強して要領を身につけることも大切です。特に次の事柄についての記録を生かすことです。

- 1．事故の記録と予防にすることから
協会への報告と予防措置を確認する
- 2．ペナルティの数
1 チーム10以上は原因究明し、レフリングに生かす
- 3．退場とイエローカードの詳細
退場は協会に報告し、原因究明と予防措置を確認する
- 4．位置およびコースの反省
スタートのタイミングも含めて研究する
- 5．予測の当否
イマジネーションの訓練の積み確率を高める
- 6．総括（感想と反省）

・まとめ

反省や研究を生かす原動力はレフリングに対する意欲とビジョンです。目標は高く夢をもって挑戦しましょう。トップクラスのレフリングを見て参考にすることも有効ですが、全ての試合でレフリングを通してのみ試合をみるのではなく、一番大切なことは、ラグビーを愛して、よいゲームを楽しみ、素晴らしいプレーに感動する豊かな人間性を大切にすることです。

ラグビーそのものを楽しみ感動する自分が一番大切なのです。

2003.04.29

西川 義行